

「民生委員とは何なのか」

(1) 事例の概要

お一人暮らしで見守りを希望された70代男性 A さん。がん治療をしながらも明るく暮らしておられました。残念ながらご自宅で息を引き取られました。

(2) 活動の内容

私が初めて A さんにお会いしたのは、令和5年の春。民生委員をお引き受けして間もない頃でした。

A さんは、がん治療をしているといいながら『タバコはやめられない。病院の帰りにパチンコに行くのが楽しみなんだ。』といつも笑ってお話される方でした。『生活もぎりぎり。病院の支払いも数回に分けて支払っている。弟がいるけど、長い間疎遠だったからなかなか援助は頼めんわ。でも何とかなるよ、ケ・セラ・セラだわ。』と私の方が元気をいただくようで、いつもお会いしてお話するのが楽しみでした。

その後1年くらいは治療のため何度か入退院を繰り返しながらも、あまりお変わりはなく過ごされていきました。しかし、病気が転移し、確実に進行していったようで、徐々に弱っていかれました。

いきいき支援センターに連絡もしましたが、そのときはまだ介護を受けるまでには至りませんでした。訪問介護は受けているとのことでしたが。私自身、公的な支援制度について知識がないため、生活費・医療費は大丈夫なのか。日常の手助けは本当に必要ないのか。とても心配でした。何もできない私でしたが、できるだけ訪問して、お顔を見てお話をしようと務めました。

令和6年、猛暑日が続く中、A さんは発熱と脱水で意識が朦朧としていたところを訪問看護の方が発見してくださり、緊急搬送されました。ちょうど私も訪ねたところだったので、訪看さんと連絡先を交換することができました。その時は10日程で退院されましたが、それからはどんどん痩せて、お話しする声も弱くなり、歩くのもやっとになってしまいました。

秋ごろ、どうやら弟さんが介護申請をしてくださったようですが、『ヘルパーさんが2日に1度食べ物を届けてくれるけど、ほとんど食べれんわあ。』とおっしゃっていました。

そして、12月のはじめ。A さんから電話がかかってきました。『ベッドの横で転んで起き上がれない。』

すぐに訪看さんに連絡を入れて私も向かいました。どうやら飲み物を取ろうとして、ベッドから転がり落ちてしまったようですが、家の中はあらゆるものが散乱し、床には食べものがこぼれ落ち、キッチンの流し周りにはたくさんのコバ

工が飛んでいました。

このままではいけないと思い、すぐいきいき支援センターに電話をし、ケアマネさんと連絡を取りました。ケアマネさんは訪問の日を増やす方向で話を進め、掃除を念入りにしましょうと言ってくださいました。次にお尋ねしたときは少しきれいになっていました。

Aさんに『また会いに来るからね、待っててね。』と言って帰りました。

12月25日、お尋ねすると家の電気が点いていません。ヘルパーさんの訪問日のはずだったので待っていたのですが、なかなかいच्छらないのでケアマネさんに電話をしました。そしてケアマネさんからの返事は、

『5日前に亡くなりましたよ。』

私が前回訪問した2日後のことでした。あの時『また来るね。』の私の言葉に、力もなく笑ってくれたAさん。何もしてあげられなかった。何か私にできることはなかったのか。とても無力な私に最後まで笑ってくれたAさんに申し訳ない気持ちと、感謝の気持ちを伝えられなかった後悔で涙があふれました。

(3) 成果・所感

民生委員の役割は「話す・見守る・つなぎ役」

話す・見守るは会いに行くことでできるのですが、果たしていきいき支援センターに連絡・相談をしたことで、つなぐ事はちゃんとできたのでしょうか。今も自問自答しています。

訪看さん、ケアマネさん、いきいき支援センターさんと「連携して見守っていきましょう」と話し合いをしましたが、亡くなった連絡がどこからも民生委員に入らなかったことで、私自身の立場の弱さを実感したことも事実です。